

# 第17回 JAB特別セミナー



平成28年11月28日 16:00~17:30  
広島大学生物生産学部 C301教室

## 演題 I

多様なニワトリ品種の全ゲノム情報を用いた卵殻色の  
遺伝解析の試み

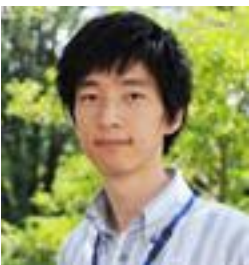


後藤 達彦 助教

帯広畜産大学・畜産生命科学研究部門

## 演題 II

鳥類の先天的発声の仕組み



新村 毅 准教授

東京農工大学・JSPS卓越研究員

連絡先： 都築 政起

[tsudzuki@hiroshima-u.ac.jp](mailto:tsudzuki@hiroshima-u.ac.jp)

082-424-7950 (内線 7950)





## 第17回JAB特別セミナー

2016年11月28日 16:00~17:30 広島大学生物生産学部C301教室

### 多様なニワトリ品種の全ゲノム情報を用いた卵殻色の遺伝解析の試み

後藤達彦 (帯広畜産大学・畜産生命科学研究部門)

白玉・赤玉・ピンク卵と呼ばれる鶏卵は、スーパーなどの店頭で見ることができる。ニワトリは世界に500品種いるといわれているが、それらのうち、たった数品種が商業用に利用されているにすぎない。多様なニワトリ品種は、様々な卵殻色を示すことが知られているが、それは各々の卵殻色を生み出すための遺伝子セットを保有していることが根底にあると考えられている。近年のゲノム解析技術の向上によって、集団レベルで、全ゲノム情報を得ることが容易になった。本発表では、様々な品種の集団を対象にした、「集団ゲノム解析」によって、卵殻色の表現型の多様性を制御している遺伝子群を同定する試みについて紹介する。

### 鳥類の先天的発声の仕組み

新村 毅 (東京農工大学・JSPS卓越研究員)

動物は、なぜ「ワン」と鳴いたり、「ニャー」と鳴いたりすることができるのだろうか？興味深いことに、ヒトの言語のように発声を学習できる動物はごく一部であり、ほとんどの動物は学習をしなくとも種特有の発声形態を獲得することができる。この生まれながらに備わる発声能力のことを先天的発声と言うが、そのメカニズムはいかなる生物においても明らかにされていない。我々は、この先天的発声の制御機構を明らかにするために、ニワトリの「コケッコー」(Crowing)をモデルとした研究を展開している。本発表では、先天的発声の制御機構を集団レベルから分子レベルまでを多階層的に理解しようとする試みについて紹介する。